

スポーツ学部・スポーツ学科 カリキュラムツリー (2023年度以降入学生)

CP (カリキュラムポリシー)

スポーツ学科は、大学の教育課程編成・実施の方針 (CP) に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専攻教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。

【教育内容】
 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、アスリートマネジメントコース、スポーツ教育コース、スポーツトレーナーコース、スポーツ政策コースの4コースで構成し、スポーツに関する専門的知識、技能を身につけるよう、系統的に科目を配置する。
 2. 専門教育科目は、「共通科目」「専攻コース科目」「専門演習科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できるよう科目を配置する。スポーツに関わる理論知・実践知を身につけ、学年を重ねるにつれてそれらを応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。
 3. さらに専門演習科目は、3年次より少人数クラスで展開され、4年次に卒業研究に取り組む。

これらの科目を通して、国内外において活かせる「協調性」、「社会性」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「礼節とマナー」、「指導者能力」、「課題探求能力」、「課題解決能力」を育む。

【教育方法】
 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。
 2. 演習・実験・実習においてはグループ学修を取り入れ、協調性を身につけるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する能力を育成する。
 3. 卒業研究は、身につけた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶよう個別指導を実施する。

【教育評価】
 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。
 2. 4年間の学修成果は、卒業研究 (必修) によって行い、総合的に評価する。

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通科目	解剖生理学 <small>衛生学及び公衆衛生学 スポーツ運動学(運動方法学を含む)</small>	スポーツ生理学 スポーツバイオメカニクス スポーツ社会学 スポーツ心理学 テーピング実習 健康フィットネス論	スポーツ医学 健康づくり運動理論	スポーツ栄養学	体カトレーニング論 運動生理学実験 スポーツ動作解析法 スポーツカウンセリング論 キャリアアドバンス公務員養成I キャリアアドバンスAT養成I	生活習慣病理論 スポーツ統計学 スポーツクラブのマネジメント キャリアアドバンス公務員養成II キャリアアドバンス教員養成I キャリアアドバンス健康指導者養成I キャリアアドバンスAT養成II	発育発達老化論 健康栄養指導演習 運動プログラムの管理 キャリアアドバンス公務員養成II キャリアアドバンス健康指導者養成I キャリアアドバンスAT養成II	スポーツの歴史と文化 キャリアアドバンスAT養成II レクリエーション論 キャリアアドバンス教員養成II キャリアアドバンス健康指導者養成II キャリアアドバンスAT養成II
	トレーニング実習		救急法実習		健康産業施設実習 (集中)、キャリアアドバンスJATI-ATI養成 (集中)			
	体力測定評価法実習		スポーツワークショップ (集中)					
	アスリートマネジメントコース <small>セルフマネジメントの能力を持った新しい時代のアスリートや指導者を指す</small>		アスリートマネジメント概論	コーチング各論A トレーニング計画論 レジスタンストレーニング実習	コーチング各論B コーチングシステム論 メンタルトレーニング演習	コーチング実習 スポーツコミュニケーション論 スポーツパフォーマンス測定実習 地域スポーツ論	スポーツゲーム分析演習 アダプテッドスポーツ演習	スポーツ戦略論 <small>スポーツ栄養マネジメント演習</small>
		アスリート栄養実習 (集中)						
スポーツ教育コース <small>学校教員を主に、スポーツを通じて教育を行なう指導者を指す</small>		スポーツ教育概論	社会体育論 ジュニアスポーツ論	学校体育のマネジメント 学校体育指導演習 学校保健I (学校安全を含む) ジュニアスポーツ指導演習	器械運動指導法(体づくり運動を含む) 水泳指導法 ダンス指導法 学校保健II (小児保健・精神保健を含む)	陸上競技指導法 球技指導法A 球技指導法B 武道指導法 学校保健指導演習		
		スポーツトレーナーコース <small>選手を支えてスポーツに関わる各種のスポーツトレーナーを目指す</small>	アスレティックトレーナー概論	機能解剖学I スポーツ傷害論I コンディショニング論	機能解剖学II スポーツ傷害論II コンディショニング演習 身体機能評価法	スポーツ傷害評価法 リハビリテーション論 アスレティックテーピング	アスレティックリハビリテーション論 スポーツ内科学	アスレティックリハビリテーション演習
スポーツ政策コース <small>生涯(地域)スポーツの活性化を担い、スポーツ行政に携わる資質・能力の獲得を目指す</small>	スポーツ政策概論	スポーツ政策各論 スポーツ組織論 生涯スポーツ論	地域スポーツ政策演習 生涯学習と社会体育	生涯スポーツと社会体育の指導者 生涯学習支援方法論	生涯スポーツと社会体育の計画・立案 生涯スポーツと社会体育の経営 ボランティア活動と生涯スポーツ	地域スポーツ指導実習 スポーツ社会教育演習		
専門演習科目				スポーツ社会教育実習 (集中)				
スポーツ実技科目	体操(体づくり運動を含む) 陸上競技A、バスケットボール サッカー	ハンドボール ラグビー	健康づくり運動実技、アクアエクササイズ	器械運動、陸上競技B、水泳、バレーボール、バドミントン ダンス、剣道、柔道、エアロビクダンス	レクリエーション実技	ソフトボール・野球、テニス		
	キャンプ、マリンスポーツ、スノースポーツ (1年次から4年次前期まで年間を通じて適切な時期に行う)							
総合共通科目	総合共通コア科目	福原学						
	教養教育科目	ことばと日本文化、スポーツの文化、ことばと異文化、情報文化論、歴史と国際情勢、現代国家と法(日本国憲法) 暮らしと経済、人権・同和教育、人間と哲学、生命と地球、心の科学、共生社会を生きる						
	言語・異文化理解科目	日本語表現法I	日本語表現法II	伝わる文章力				
	英語I	英語II	英語コミュニケーションI	英語コミュニケーションII	海外研修(1~4年次・集中)			
情報教育科目	情報処理演習I	情報処理演習II	情報処理演習III	情報処理演習IV				
キャリア教育科目	職業とコミュニケーション	インターンシップ(企業研修)		キャリアデザインI	キャリアデザインII			
スキルアップ講座B	スキルアップ講座C	スキルアップ講座G	スキルアップ講座R	スキルアップ講座A	スキルアップ講座H	スキルアップ講座S		
自由選択科目	教職課程関連科目	教職論	教育原論	教育心理学 特別支援教育概論 教育制度論	教育課程論 教育相談	教職総合講義 生徒・進路指導論 学校体験活動 特別活動・総合的な学習の時間指導法	道徳教育指導法 教育方法論 情報通信技術の活用を含む。	
	K-CIP関連科目	公務員試験概論 教職一般教養I	数的処理I 社会科学I 教職一般教養II	数的処理II 社会科学II 民法(総則、物権)演習 ミクロ経済学演習 憲法(権限、組織)演習 行政法演習 マクロ経済学演習 保健体育科I 教職教養基礎II	文章理解 数的処理III 人文科学 行政法演習 マクロ経済学演習 保健体育科II	法律科目演習I 経済科目演習I 行政科目演習I 法律科目演習II 経済科目演習II 行政科目演習II 公務員試験演習対策I(教養) 文章理解演習 公務員試験演習対策II(SPI) 教職教養応用I	公務員試験演習対策II(教養) 社会科学演習 自然科学演習 公務員試験演習対策III(SPI) 公務員試験演習対策II(SPI) 専門科目記述式演習 教職教養応用II 公務員人物試験対策 教職総合演習	
	他学部科目	他学部履修科目						
	自由科目 <small>卒業要件単位に含まない科目 【教職に関する専門教育科目】</small>		保健体育科教育法I	保健体育科教育法II	保健体育科教育法III	保健体育科教育法IV	教育実習I・II 教職実践演習(中・高)	事前事後指導

DP (ディプロマポリシー)

スポーツ学科は、総合的な教養、スポーツ分野での多様な専門知識を身につけ、幅広い教養かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目指す。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。

【知識・技能】
 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系的基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】
 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。

【主体性・協働性・倫理性】
 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。